

熊本県立岱志高等学校定時制 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標	
生徒・保護者・教職員・地域が「岱志に来てよかった、岱志にやってよかった、岱志に勤めてよかった、そして岱志がここにあったよかった。」と思える学校を目指す。 ～総合的人間力の育成～	
1 夢(志)を描き、夢の実現への挑戦	…… 志を育み、励まし、鍛え、伸ばす
2 心の教育の充実	…… 自己肯定の心と命を大切に作る心、郷土を愛する心の育成
3 生徒指導の充実	…… 基本的生活習慣の確立及び自律心の育成
4 確かな学力の育成	…… 基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実

2 本年度の重点目標	
本年度スローガン「志は集う～未来を描くわれら岱志高校定時制～」	
(1) 特色ある学校づくりを推進する。	
(2) 学力の向上と進路保障の取組を強化する。	
(3) 健全な心身を育成する。	
(4) 安心・安全な学校を維持する。	
(5) 地域社会の期待に応え、活力ある学校づくりを行う。	
(6) 定時制の特色化を推進する。	

3 自己評価総括表		※「成果と課題」の部分は、○：成果 △：課題(改善・継続等)				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	○学校教育目標の具現化	○教育重点目標の共有	○業績評価における各職員が掲げた取組目標の達成	○各職員における日ごろの取組を観察し、目標達成状況を面談等で評価	B	○職員自らの業務を意識して実践できた。 △お互いをカバーしあえる職員集団を更に強固にするよう継続していく。
		○定時制教育の充実	○生徒会スローガン「志は集う～未来を描くわれら岱志高校定時制～」の実践	○生徒会スローガンを生徒・職員が共有し、心身の育成、学習・生活並びに就労の指導・支援の実践		○生徒の実態に合わせた学習・生活・就労の指導・支援ができた。 △規模を縮小しながら学校行事を実施できたことは生徒の意欲高揚、生徒・職員間の信頼関係づくりに繋がった。今後も信頼関係を深めていく。
		○外部への本校定時制に関する効果的な情報発信	○HPや広報誌等を活用した広報活動の充実	○HPの月1回更新、広報誌の年4回発行		△HPの更新は、部分的にできた箇所・できなかった箇所があった。 ○広報誌は2号まで発行し今後3・4・5号を発行予定。 ○安心メールを積極的に利用し、適宜保護者・生徒に情報を発信した。
	○教育のUD化	○個々の生徒への対応	○コミュニケーションスキルの向上 ○生徒に関する職員間の共通理解の充実	○全職員で日常の生徒に関する共通理解を図り、生徒指導・支援に繋がった実践	B	○毎日の連絡会で生徒の状況を全職員で共有、意見を出して事後指導に活かした。 ○多様な家庭環境・特性を持った生徒に対して、全職員で知恵を出しながら効率の上がる指導をするよう実践をした。

		○新教育課程の編成における定時制教育の充実	○生徒の実態に合う令和4年度(2022年度)教育課程の原案提示	○教科・科目の視点、生徒指導・進路指導等各部署から本校定時制として育む生徒像を明確にした新教育課程の原案提示	B	○教務主任を中心に、令和4年度(2022年度)入学生向けの教育課程の原案は作成できた。 △今後は、漏れがないように確認するとともに、本校定時制の特色を出した教育課程編成としたい。
	○業務改善	○「主体変容」の業務姿勢 ○風通しの良い職場環境	○職員自身が気づき、自ら変わり、主体的に考えた業務の実践・遂行 ○課題に向けて対応できる職員集団づくり	○各職員が受け身ではなく主体的に活動することで、業務の効率upと職員の育成・成長 ○職員間での意見が言いやすい環境で、課題解決・改善ができる職員集団の形成	A	○職員自身の主体性を引き出すように管理職が職員の良い点は褒め、時には背中を押すような雰囲気づくりをし、プラスの言葉を使うように意識し実践した。 ○全職員が情報を共有する環境、職員間で建設的な意見が言いやすい雰囲気づくりはおおむねできた。 △職員が積極的に自ら発し責任持って行動するような職場づくりは現在途中の段階である。
	○働き方改革	○業務面や会議等の削減並びに時間縮減	○必要である業務並びに会議・研修等を最小限に実施	○必要・不必要な業務を洗い出し、「生徒第一」に専念 ○職員自らの職務への誇り・達成感・充実感	A	○本当に必要な会議等以外は、極力連絡会等で時間を取った。 ○連絡会・会議以外の時間は生徒指導や授業準備など「生徒第一」に充てる取組はできた。
学力向上	○基礎・基本の確実な定着	○全職員による個々の生徒の学力把握	○基礎学力診断テスト「BIG GATE」による学力分析の全職員での共有	○学力分析の結果に応じた学習課題の設定	A	○本校独自の学習定着確認の取組(名称「BIG GATE」)の定着から学力分析会も充実し、生徒の学力や課題を全職員で共有できた。進路学習(名称「岱定らしんばん」)とも連携し、生徒にも成果や課題を示せた。
		○出席率の向上と授業時間の厳守	○出席率85%以上 ○授業遅刻者の減少	○欠課時数・欠席理由の把握 ○遅刻・欠席の多い生徒との面談の充実 ○家庭・保護者との連携強化	C	○担任を中心に、欠席が多い生徒への指導や家庭への連絡や保護者面談等を取り組んだ。 △新型コロナウイルス拡大の影響もあり出席率は83.1%(1/18時点)に留まっている。 △長欠の生徒や時数不足で単位修得が危うい生徒が数人いる。 △コロナ対策で今年度は本人や家族の熱発等は「出席扱い」としたが、確認等について改善の余地あり。 △登校しているが教室外で過ごす等、授業に対して意識が低い生徒がいる。

	○個に応じた指導の充実	○個々の生徒における課題の共有	○個々の生徒の課題を全職員が共有するとともに、協力しながら学習面等あらゆる面での課題の解決	○職員連絡会等を活用、生徒の情報共有し、相談やアドバイスの自由ができる雰囲気づくり ○生徒への適切な声かけ並びに支援	A	○職員間の対話を通して、生徒状況や教授法等について常に情報交換を実践。授業研究・開発等も相談や問題提起等しやすい雰囲気があり活発に意見交換できた。 ○「全職員が全生徒の担任である」という「荒定家族」の理念が実践され、全ての生徒に対して毎日丁寧な声掛けをしている。
		○授業改善	○UDや特別支援教育の視点に立った「主体的・対話的で深い学び」へと導く授業の実践 ○ICTを活用した教材づくり	○日ごろの授業を常時公開 ○職員間での対話をさらに増やし、生徒の状況や教授法等についても情報交換 ○ICT機器を活用したわかりやすく、学習意欲が高まる授業の工夫・実践	B	○UDや特別支援教育の視点に立った指導を日々実践。 ○今年度はICT活用としてプロジェクタを常設した教室「ルームV」を準備。職員は大いに活用している。 △わかりやすく学習意欲が高まる授業の実践を目指して日々研究し、積極的に取り組んでおり、今後も継続していく。
キャリア教育 (進路指導)	○進路意識の高揚	○就労経験者率の向上	○就労経験者90%	○進路行事やLHRの活用 ○就労体験の計画・実施・振り返り等のPDCAサイクルの実践	A	○就労経験者率は93%で多くの生徒が仕事と学業の両立に励んだ。地元産業の梨園に訪問し農業についての理解を深めた。 △仕事が継続しないことも多い。助言や励ましを続けていく必要がある。
	○進路保障	○進路目標の達成状況	○進路決定100%	○生徒・保護者の進路希望の把握 ○進路情報の提供 ○早期の生徒一人一人の適性に応じた進路指導	B	○例年よりも早く進路を決めていくことができた。 △進路希望を明確にするためにかなり時間がかかるので事前にスケジュールを組む必要がある。
	○ソーシャルスキルの育成	○生徒理解に基づく生徒指導の取組	○進路学習「岱定らしんばん」等を活用した生徒の活動促進	○人間関係・社会形成能力の育成 ○自己理解・自己管理能力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成	B	○計画通り4回の進路学習「岱定らしんばん」を実施。進路や学校生活の過ごし方を考える時間となった。 △進路指導の取組を一過性のものにならないようにすることが課題である。
生徒指導	○生徒理解を重点に置いた生徒指導の充実	○生徒理解研修の充実	○生育歴や現在の生徒を取り巻く家庭や交友関係、生活環境等の情報共有	○毎日、始業前に情報共有を行う ○随時、生徒理解研修を実施 ○登校指導・巡回指導の実施	A	○各種取組によって、職員間で生徒理解と情報の共有を実践できた。 △共有した情報を基に、より効果的な教育実践に繋げて実行していく。

	○基本的 生活習 慣の確 立	○自立心の育成	○校内ルール の遵守	○巡回指導・ 個人面談の 実施 ○きめ細かな 家庭への情 報の提供及 び共有	B	○多くの生徒が、学校 に適した生活を 送れた。 ○細かな変化を見逃 さず、頻りに家庭と 連携・情報共有し、 現状の理解と課題 の解決に努めた。
	○生徒会 活動の 活性化	○健全な心身の 育成のための 自主的な学校 行事の運営	○生徒会行事 への参加率 90% ○コミュニケ ーション能 力の育成	○生徒が参加 し、取り組 みやすくなる 協組 織づくり ○企画・立案 する力や意 欲的な活動 への指導・ 助言	A	○コロナ禍で一部規 模縮小しながらの 生徒会行事だった が、生徒会役員が 中心となって行事 を運営し、多くの 生徒が充実した時 間を過ごした。
人権 教育の 推進	○人権意 識の啓 発	○他者への敬意 と尊重	○良好な人間 関係の構築 ○あらゆる事 象に対する 差別や偏見 等を見いだ せる力の育 成	○人権教育講 話の開催 ○自己を見つ め、他者と 建設的・友 好的に関わ ることを目 指した人権 教育の実践 ○事例を用い た差別・偏 見等の学び の涵養	A	○人権教育合同LHRを 2回実施し、人権 への知的理解と人 権意識の啓発・向 上に努めた。 ○「水俣病」や「部 落史」の学習、新 型コロナ関連等 を通じて、差別や偏見 等を見抜く力と人 権を守る実践力の 育成に努めた。
	○「命を 大切に する心 を育む 指導」 の充実	○自尊感情と自 己肯定感の実 態	○自己肯定感 と自己有用 感の向上	○生徒の自己 肯定感を高 める教育指 導プログラ ムの工夫と 実践 ○生徒の居場 所づくり ○外部機関と の連携	A	○年間4回の生徒理 解研修や毎日の職 員連絡会、SCとの 面談・情報交換、兄 相との連携等も含 めて、全職員で生徒 の状況把握・共通理 解を実践した。 ○個に応じた効果的 な支援計画に沿っ て全職員が協力し て積極的に取り組 んだ。
特別 支援 教育	○特別支 援教育 指導力 の向上	○特別支援教育 によるキャ リア教育の推進	○進路部と連 携したキャ リア教育	○SSTやコミ ュニケー ション指 導を取り 入れた授 業の実施 ○就労支 援機 関等との 連携	B	○各授業において、 SSTやコミュニケー ションの指導を取 り入れた授業を実 践した。 ○療育手帳を取得し ている生徒の就労 についてハローワ ークに相談するこ とができた。
		○個に応じた支 援計画の実践 ○授業のUD化	○効果的な個 に応じた指 導の充実 ○UDの視点を 取り入れた 授業の実践	○個別の教育 支援計画等 に沿った支 援の実践及 び評価 ○二次障がい に関する理 解促進 ○校内委員会 や生徒理解 研修を活用 した組織的 な支援の展 開	A	○個別の教育支援計 画、指導計画を作 成し、全職員で共 有して指導に当た ることができた。 ○職員連絡会での生 徒情報共有や、二 次障がいについて の資料回覧を通し て、生徒支援につ いての理解を深め ることができた。 ○生徒理解研修やケ ース会議を実施。 組織的な支援の展 開を図ったうえで 授業等の実践に繋 げた。

環境教育	○環境教育の充実	○ゴミの分別や校内外の清掃活動の充実 ○地域の自然環境に対する意識の向上	○清掃活動による公共心の育成 ○地域の自然環境に対する意識の向上	○校内清掃の徹底と校外活動での清掃活動の実施 ○校内環境フォトコンテストの実施と文化祭等での発表	B	○生徒・職員ともにゴミの分別や校内清掃を通して、公共心を育成することができた。 △新型コロナウイルス感染防止のために行事が規模縮小や中止となった。
いじめの防止等	○いじめ及び類似事案の根絶	○基本的人権の尊重の確認 ○学校における居場所の確認	○いじめをはじめとする人権侵害を絶対に許さない意識の確立 ○いじめ事案による特別指導ゼロ	○教育活動全般における人権意識の涵養 ○未然防止指導から個別事案対応・事後指導に至るまで、責任を持った指導の継続	C	△SNS関連のいじめと認知した内容が2件あった。いずれも解消し、経過を見ている状態である。 △今後更なるいじめ発生の未然防止に向けて、生徒の変化を見逃さない広い視野を持った教育実践が不可欠である。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	○防災型CSを中心とした活動並びに総合型CSへの移行	○災害時の的確な判断力・実践力の育成 ○災害を想定した関係機関や近隣施設との役割の確認 ○総合型CSの準備	○3回以上の避難訓練の実施 ○災害時に本校が担うべき役割の明確化 ○令和3年度(2021年度)総合型CSの始動	○災害時における多様な判断・実践のケースの指導 ○災害時における本校の役割を全職員・全生徒が共有 ○総合型CSの委員構成や内容等の具体化	B	△今年度コロナ禍により、生徒・職員によるシェイクアウト訓練のみに留まった。3月には防災教育を予定。 ○荒尾市総合防災訓練には定時制職員約半数が参加。訓練を通し地域連携並びに貢献の大切さを感じた。 ○総合型CSに向けた準備を進めることができた。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 本校の特色の明確化 ○他校に比べて、「県立岱志高等学校」の特色を打ち出せていない。本校の特色を明確に打ち出し、PR・広報活動も積極的に行うことは大切である。</p> <p>(2) 入学志願者数の増加に向けて ○荒尾市内の中学校からの出願は、市内中学生数の約1割にも満たない。 ○背景として、荒尾市内はJRがあり玉名・熊本方面への通学が可能、隣接する福岡県大牟田市の高校は荒尾市も学区内に行っているなど地理的要因がある。県内外私立学校のPRがとても積極的で、中学校に浸透している。 ○地域の学校に通わせたいと希望を持っている家庭もある。志願者数の増加に繋がれるような取組は必要である。</p> <p>(3) 少人数の在籍生徒への指導の強み ○定時制は1クラスあたり10人前後の生徒が在籍しているため、少人数の強みを活かして一人一人を大切に、丁寧かつ寄り添う指導ができています。</p> <p>(4) インターンシップなどを通じた地元との繋がり ○荒尾市とのタイアップの取組はできている。 ○インターンシップで地元企業との繋がりを大切にしてほしい。企業にとっては、インターンシップを受け入れることで優良企業として打ち出せるメリットもある。</p>
--

5 総合評価

本校定時制における1～3の項目について記述する。

1 本年度の学校教育目標について

- 生徒・職員ともに、本校定時制に愛着を持ち、生徒は日々の学習に励み、職員は「生徒を第一」に考えた教育活動を実践している。生徒・職員ともに多くが「岱志高校に来てよかった」と感じながら日々の生活を送っている。
- 「総合的人間力の育成」に関しては、先述の生徒の様子から現在進行形で育成に勤しんでいるところである。

2 本年度の重点目標について

- 生徒たちは中学時代に不登校経験など様々な課題を抱えながらも、全体的に見て明るく元気に登校している。
- 教職員は生徒一人一人を大切に、生徒との距離間を考えて寄り添うような指導を心がけ、概ね良好な関係を築けている。
- 「心の教育」「生徒指導」は、個々の生徒に応じて、成長・改善が見えるような指導の工夫をしている。
- 「基礎学力の充実」は、生徒の興味・関心を引くように、授業展開の工夫やICT機器の有効的な活用を実践している。

3 自己評価総括表について

- 「出席率」と「いじめ」に関する点をC評価とした。
- 「出席率」は目標85.0%に対し、今年1月時点で83.1%だった。今年度在籍している生徒ならば、高い目標を設定しても到達する可能性があるかと期待した数値目標だった。現実としては、生徒たちはよくがんばって登校しており、今後も生徒たちが主体的かつ意欲的に登校するような学校の雰囲気づくりを継続させたい。
- 「いじめ」に関して、SNS上でのトラブルがあった。生徒は感情をそのまま文字として投稿・発信するため、投稿された側の気持ちやネット上に発信したことがどのように広がっているのかということ推測できるまでに考えの浅さがあると思われる。日頃の学校生活で発する言葉も含めた言語環境の整備や、情報モラル教育の充実を図ることも含めて改善に取り組みたい。
- その他、10項目がA評価、12項目がB評価ということで、全般的には年度始めに設定した目標は概ね達成した。

6 次年度への課題・改善方策

○生徒が安心して学校生活を送れる「荒定家族（あらていファミリー）」の継続

生徒一人一人が安心して学校生活を送れるように、教職員が生徒に寄り添い、個に応じた指導を行い、生徒・教職員が一緒に本校定時制を活気づけられるような関係づくり・雰囲気づくりを実践し、前身校からの生徒会スローガンで脈々と継承されている「荒定家族」を継続する。

○生徒・保護者・教職員が「岱志高校定時制でよかった」と思える学校づくりの継続

今年度の生徒・保護者へのアンケート項目で「本校定時制に入学して良かった」の回答が3.5点以上(4点満点)と高い数値となり、昨年度よりも上昇した。生徒・保護者からの信頼を得られるように、生徒・保護者、そして、教職員が「岱志高校定時制に来てよかった」と思えるような環境づくりを継続する。

○基礎学力の充実と進路意識の向上

日常の「学びの機会」を保障するためにも、教職員の授業力向上に加え、生徒たちの基礎学力を充実させていくための工夫や学び直しの充実も図っていく。基礎学力の充実と並行して、入学時からの進路意識を向上させていくことも重要である。進路学習「岱定らしんばん」等を行っているが、生徒が主体的に意識できるような内容の工夫をしていく。

○生徒間のより良い人間関係づくりを支える職員集団の形成

SNS上でのトラブルや生徒間での言葉のやり取り等でのトラブルなどを未然に防ぐために、生徒・職員ともに言語環境の整備や情報モラル教育の充実など、いじめを含めた全ての生徒指導上の課題を未然にもしくは最小限で対応・解決できるような教職員集団を形成する。そのためにも、今後も随時生徒の情報共有は欠かさずことなく、同じ目的意識を持った集団としたい。

○個に応じた生徒への対応の充実

生徒たちは個々に様々な課題(悩み)等を抱えている。生徒が相談しやすい環境づくり、生徒と教職員の信頼関係づくりに力を入れ、生徒と教職員がより一層信頼し、学習・生活・進路など全般的に各生徒に応じた指導ができるように、教職員は必要なスキルを身につけるとともに、定時制全体としての協力体制を整えていく。

○新たな「学校運営協議会」のスタート

今年度まで本校には「学校評議員会」と「防災型コミュニティー・スクール(学校運営協議会)」を設置していたが、来年度はこの2つの会を1つに移行して、新たな「学校運営協議会」をスタートする。協議会委員を10人(教育行政・教育機関・地域住民・地域企業・保護者・同窓会)として、新たな形で学校と保護者・地域住民等と連携・協力しながら、本校の活性化に繋げていく。